

テーマ：消費者物価（全国10月、東京都区部11月） 発表日：2011年11月25日（金）
～年明け以降はマイナス幅が拡大する見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
10	1月	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 1.2	10.9	▲ 1.5	▲ 2.1	▲ 2.0	▲ 1.4	14.2	▲ 2.0
	2月	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.1	11.5	▲ 1.4	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 1.3	12.7	▲ 1.6
	3月	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.1	12.0	▲ 1.8	▲ 1.7	▲ 1.8	▲ 1.2	14.2	▲ 2.0
	4月	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 1.6	13.2	▲ 1.6	▲ 1.5	▲ 1.9	▲ 1.4	13.1	▲ 1.8
	5月	▲ 0.9	▲ 1.2	▲ 1.6	15.7	▲ 1.7	▲ 1.4	▲ 1.5	▲ 1.4	16.5	▲ 1.9
	6月	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 1.5	12.3	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 1.4	11.8	▲ 1.7
	7月	▲ 0.9	▲ 1.1	▲ 1.5	7.8	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.3	▲ 1.4	5.9	▲ 1.9
	8月	▲ 0.9	▲ 1.0	▲ 1.5	7.0	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 1.4	4.4	▲ 1.7
	9月	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 1.5	4.0	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 1.3	1.7	▲ 1.6
	10月	0.2	▲ 0.6	▲ 0.8	4.0	▲ 1.3	0.3	▲ 0.5	▲ 0.6	3.7	▲ 1.2
	11月	0.1	▲ 0.5	▲ 0.9	5.0	▲ 1.2	0.2	▲ 0.5	▲ 0.6	4.1	▲ 1.1
	12月	0.0	▲ 0.4	▲ 0.7	5.8	▲ 1.1	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 0.5	4.7	▲ 1.3
11	1月	▲ 0.6	▲ 0.8	▲ 1.3	8.4	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.0	8.4	▲ 0.8
	2月	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.3	7.6	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.9	6.3	▲ 1.0
	3月	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 1.4	12.5	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 1.0	12.4	▲ 0.9
	4月	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 1.1	12.6	0.0	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 1.0	13.4	0.0
	5月	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 0.8	9.3	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.6	9.6	▲ 0.4
	6月	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.8	7.9	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.7	7.7	▲ 0.6
	7月	0.2	0.1	▲ 0.5	9.8	▲ 0.2	0.1	▲ 0.1	▲ 0.4	10.8	▲ 0.3
	8月	0.2	0.2	▲ 0.5	11.7	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	13.1	▲ 0.4
	9月	0.0	0.2	▲ 0.4	9.7	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.4	9.1	▲ 0.5
	10月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 1.0	7.7	0.2	▲ 0.5	▲ 0.4	▲ 1.0	7.2	▲ 0.4
	11月	—	—	—	—	—	▲ 0.8	▲ 0.5	▲ 1.1	7.7	▲ 0.4

（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

（注）2010年12月以前の前年比は05年基準の値

○ たばこと傷害保険料のプラス寄与剥落により、4ヶ月ぶりの前年比マイナス

総務省より発表された2011年10月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.1%となり、4ヶ月ぶりにマイナスに転じた（9月：同+0.2%）。これまで前年比での押し上げ要因になっていたたばこと傷害保険料の影響（合わせて+0.32%ポイントの寄与）が、値上げから1年が経過して剥落した影響が大きい。また、たばこと傷害保険料の影響を受けない前月比（季調値）でみても前月比▲0.1%（9月：同▲0.2%）と2ヶ月連続で下落しており、物価下落圧力の根強さが窺える結果となっている。また、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）は前年比▲1.0%となり、前月（同▲0.4%）から下落幅が大きく拡大した。こちらもたばこと傷害保険料のプラス寄与剥落の影響が大きい、季節調整済み前月比でも▲0.4%（9月：同▲0.2%）と下落しており、下振れが目立つ。品目別では、外国パック旅行や航空運賃が押し下げ要因になっている。

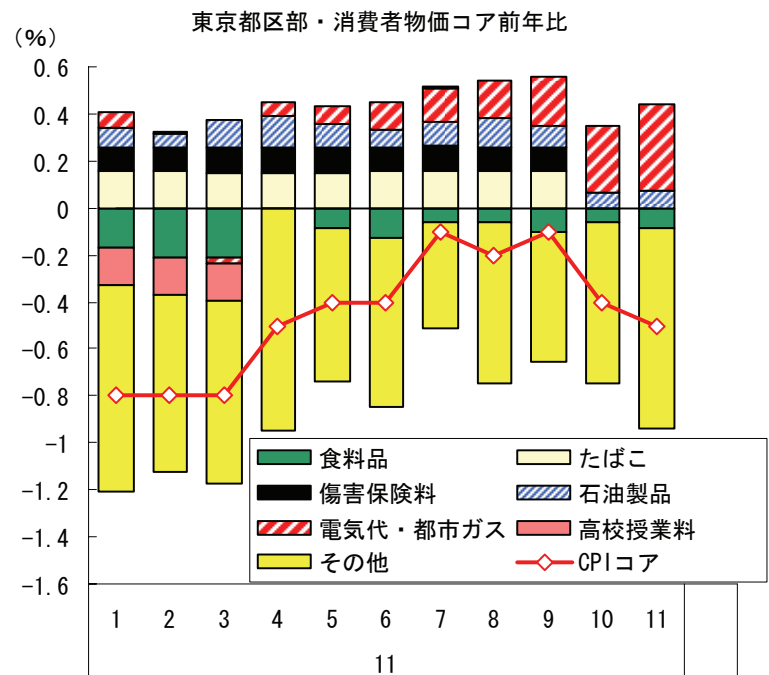
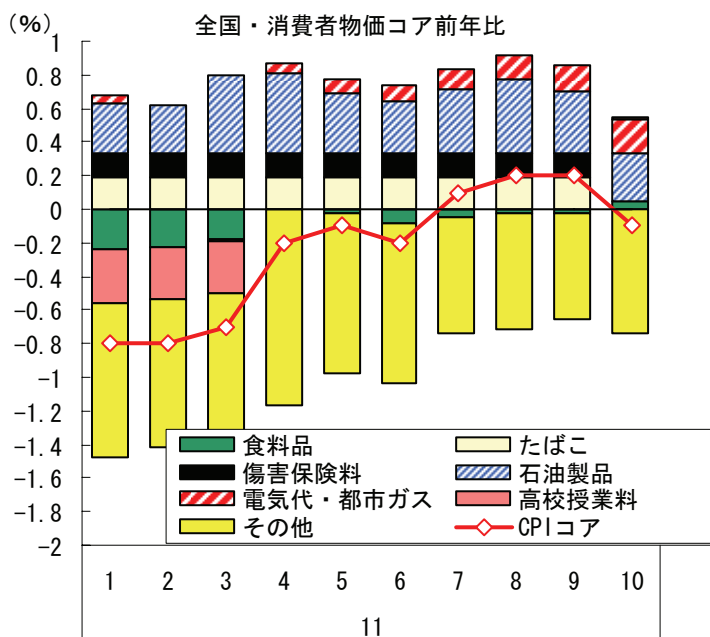
CPIコアは7月から9月まで3ヶ月連続でプラスだったが、これはあくまでたばこと傷害保険料といった制度要因や、エネルギー価格による押し上げによるものであり、物価の基調としては緩やかな下落が続いているということが改めて確認されたとと言えるだろう。

○ 先行きもマイナス圏の推移続く。年明け以降は下落幅拡大へ

先行きについても、CPIコアはマイナス圏での推移が続く可能性が高い。東京都区部の動向から判断すると、11月の全国CPIコアは前年比▲0.2%とマイナス幅が小幅拡大すると予想される。また、年明け以降については、CPIの下落幅が明確に拡大していく可能性が高いだろう。景気減速が明確化し、需給ギャップの改善が滞ることに加え、前年の同時期に石油製品価格が上昇していた裏が出ることなどが背景にある。原油価格動向次第ではあるが、2012年の4～5月頃には前年比で▲0.6%～▲0.8%程度まで下落幅が拡大してもおかしくない。物価が基調としてプラスになる時期は、まだ展望できる状況にはない。

○ 東京都区部の動向

2011年11月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.5%（10月：同▲0.4%）となり、市場コンセンサスの同▲0.3%を下回った。前月からマイナス幅が拡大したことに加え、季調済み前月比でも▲0.2%と下落している。また、米国型コアでも前年比▲1.1%と下落幅が拡大（10月：▲1.0%）しており（季調済み前月比：▲0.3%）、全般的に下振れが目立っている。物価下落圧力が依然強いことを示す結果と言えよう。前年比の内訳では、石油製品は前月からプラス幅に変化がなかったが、過去の燃料費上昇の影響で電気代、ガス代が上昇した結果、エネルギー価格のプラス寄与は拡大した。一方、外国パック旅行のプラス寄与が縮小したことが押し下げ要因になっている。なお、電気代、ガス代については、年内いっぱい上昇が続くとみられるが、年明け以降は前月比で低下に向かう見込みである。そのほか、生鮮食品を除く食料は前年比▲0.4%と、マイナス幅は変わらなかった



（出所）総務省「消費者物価指数」

（注）2010年12月以前の年比は05年基準の値